TC が日本の未来を変える

-歯科に来院される全患者の健康観向上を目指して-

TC レギュラーコース第10期
医療法人靖正会　萱島駅前歯科クリニック
管理栄養士兼歯科助手　前　絵理
2020 年 1 月 28 日

目次

第 1 章　はじめに..... 3
第 2 章　日本の歯科医療におけるTCの役割..... 4
第 3 章　TCスクールを受講して今後の私に何かできるか.....5
第 4 章　理想のTC像..... 5
第 5 章　おわりに.....6
参考資料.....6

第１章　はじめに

私は歯科医院に入社する前からトリートメントコーディネーター（以下TC）の資格を取ろうと決めていた。入社前に歯科の分野で自分がどのような役割が担えるのか、将来どのような姿で働いているのが理想なのかを探し求め、その結果としてTCというキーワードへ辿り着いた。私はTCマスターカレッジ鈴木誓子先生との出逢いを運命だと感じている。しかし入社前からTCを意識していたにもかかわらず出逢うまで約2年を要した。少し遠回りをしたが、今が一番良い出会いのタイミングだったと結果として理解している。TCマスターカレッジに出会った時、セミナーは満席だった。しかし、私はどうしてもこのスクールに通いたいという強い思いがあり、当院の院長、そして当法人の理事長を説得し、事前にセミナー参加の許可を取った上でその日の夜すぐに、スクールの運営元である日本歯科厚生協会へセミナーにどうしても参加したいという旨の熱いメッセージを送った。私の想いは通じ何とか席を確保していただけた。本当に感謝しかない。私は、現在管理栄養士業務と歯科助手業務を兼任している。このTCマスターカレッジに出会うまで、いや、鈴木先生に出会うまでは「全国の歯科医院に管理栄養士を在籍させる」のが私の大きな目標であり夢だった。しかし、今では「全国の歯科にTCの資格を持った管理栄養士を在籍させる」という目標に変化した。管理栄養士と歯科を強固に結びつけてくれたのがこのTCという役割だったからだ。そんな強い想いを胸に、日本の歯科とTCについて論じる。

現在日本では急速な人口現象に伴う超高齢社会へ突入し、食や生活習慣の変化から生活習慣病と言われるがん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病等の割合が増加し続けている。そのため、国は様々な対策、対応に追われている。その対策の一つ「健康日本21」では、歯の健康は生活の質（QOL）を確保するための基礎となる重要な要素であるとしている。

当論文では歯の健康と QOL を大きなテーマとする。歯科、医科、そして健康、この3つは今まで独立してきたカテゴリーだった。しかし、多くの研究から、歯科による疾患から医科（全身疾患）へつながり、それが人々の健康及び QOL に大きく影響してくることが分かってきている。

つまり、歯科での関わり方如何で人の QOL は大きく変わるということである。ここでは食のスタートである口腔内を診る歯科の立ち位置や役割に着目する。特に、現在歯科で注目されているTCという役割に焦点を当てる。一般社団法人日本歯科厚生協会が定めるTCの定義は、「歯科医師と患者との間に立って処置の説明やカウンセリングを行う人を指す。欧米では歯科領域において確立された名称である」としている。（「TCマスターカレッジベーシックセミナーテキスト」3項より引用）

本論文の構成は以下の通りである。次の章で日本の歯科医療におけるTCの役割を述べる。つづく 3 章では、TCスクールを受講して今後の私に何ができるかを述べる。最後に、理想のTC像とはどのようなものかについて述べる。

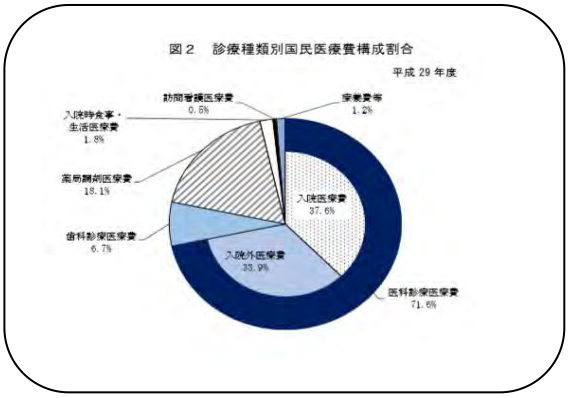
第 2 章　日本の歯科医療におけるTCの役割

国民医療費が年々増加し続け問題となっている。平成 29 年度の国民医療費は 43 兆 710 億円、前年度の 42 兆 1,381 億円に比べ 9,329 億円、2.2%の増加となっている。 医科診療医療費は 30 兆 8,335 億円（構成割合 71.6%）、歯科診療医療費は 2 兆 9,003 億円（同 6.7%）となっている。（図表 2-1 を参照）

図表 2-1　診療種類別国民医療費・診療種類別国民医療費構成割合

表4　診療種類別国民医療費

診療種類	平成29年度 国民医療費（億円）	平成29年度 構成割合（%）	平成28年度 国民医療費（億円）	平成28年度 構成割合（%）	対前年度 増減額（億円）	対前年度 増減率（%）
総数	430 710	100.0	421 381	100.0	9 329	2.2
医科診療医療費	308 335	71.6	301 853	71.6	6 482	2.1
入院医療費	162 116	37.6	157 933	37.5	4 183	2.6
病院	158 228	36.7	154 077	36.6	4 151	2.7
一般診療所	3 888	0.9	3 856	0.9	32	0.8
入院外医療費	146 219	33.9	143 920	34.2	2 299	1.6
病院	61 447	14.3	60 589	14.4	858	1.4
一般診療所	84 772	19.7	83 332	19.8	1 440	1.7
歯科診療医療費	29 003	6.7	28 574	6.8	429	1.5
薬局調剤医療費	78 108	18.1	75 867	18.0	2 241	3.0
入院時食事・生活医療費	7 954	1.8	7 917	1.9	37	0.5
訪問看護医療費	2 023	0.5	1 742	0.4	281	16.1
療養費等	5 287	1.2	5 427	1.3	△ 140	△ 2.6



（データ出所:厚生労働省「平成29年度国民医療費の概要」）

ここで歯科医療費が全体の6．7%を占めるという事実についてこの数字だけに着目すると問題と気付く人は多くないだろう。しかし、口腔内から起こる全身疾患への影響は非常大きいことも分かってきている。つまり、6．7%を占める歯科医療の役割や方向性が、医療全体の流れを左右すると言っても過言ではない。そのくらい歯科医療の在り方が問われる時代になってきている。

口腔が全身の健康に及ぼす影響については、近年様々な研究がなされている。歯の喪失と咀嚼能力の低下との因果関係や、噛めなくなることにより軟食傾向になり生活習慣病やその要因とも言われるメタボリックシンドロームを招くことになる。また栄養の偏りや食欲低下による低栄養など口腔内の問題がいつしか全身の健康へと大きく影響する結果となる。

全身の健康の入口である口腔、その口腔を診ることができる歯科でいかに患者の全身の負のスパイラルを止められるか、もしくは負のスパイラルに入らないようにするかが重要である。そのためには、歯科に来院する患者の意識、認識を変える必要性がある。そこで活躍するのがTCである。TCは患者に今の現状、現実を認識させ、審美や機能性など理想を提案し、希望に変えるための役割を持つからだ。

現在日本で活躍されているTCの先駆者鈴木誓子先生の言葉を借りるなら、「疾患を治すことを強要するより、健康であることの要求を高めるのが私たちの務めだ。」

鈴木先生の言葉の通り、この役割を全うできたなら患者の健康観が向上し、口腔内の疾患にとどまらず全身疾患への予防にも大きく貢献できる。

第 3 章　TCスクールを受講して今後の私に何ができるか

3．1　歯科に来院される患者の健康観を上げ、デンタルIQ及びQOLの向上を目指す

そのためにはスクールで学んだ

・検査結果、検査数値をもとに現実を認識させる

・審美性、機能性など理想を提案し、希望に変える

・カウンセリングを通して患者のWANTSを作り出す

を実践するための院での仕組み作りを完成させ、徹底的に実践する

患者が自身の口腔内に関心を持つことにより、口腔内の環境が良くなれば全身の健康へも大きく寄与する

3．2　全国の歯科へTCを在籍させるための普及活動

TCが日本の未来を変える。そんな時代がやってくる。大げさではなく、そのくらい重要な役割だと認識している。コンビニよりも多いと言われている歯科医院だが、全ての歯科医院にこの重要な役割を担うTCという存在が少なくとも1人在籍することを想像すれば、私が言う日本の未来を変えるということが大げさではないことに気が付くだろう。もちろん簡単なことではないし、時間もかかる。しかしやる価値は十二分にある。管理栄養士にTCの考えと知識が複合した時、雷が落ちたような衝撃が走った。実際に患者が日に日に口腔内に興味を持ち、生活習慣が変わり、自身の全身の健康にまで関心を持ち、カリエスリスクの高い食生活から一変するのを目の当たりにした。こんなことが本当に起こるのか、そのくらい状況が様変わりした患者を見ると感動すら覚えた。絶対に自分の目標であり夢である「全国の歯科にTCを」を現実にしなければいけない。これは私の人生かけての使命だ、そう確信した。より多くの歯科医療従事者へ役割の大きさ、大切さ、魅力を伝えTCの在籍へと繋げる活動を行っていく。

第 4 章　理想のTC像

歯科医院にとっても、患者にとっても、日本にとってもWinWinWinな関係が築ける、そしてその関係を保ち続けるプロでありたい。自分の家族がもし治療をするとしたら、皆真剣に考えるだろう。ではそれが一般の患者であればどうだろう。患者を家族のように、一人の人として真剣に人生の道のりを考えるかの如く寄り添いサポートをする。誰一人として同じ口腔内、ライフスタイル、食生活の人はいない。だからこそパーソナルな対応が必要であり、それが価値となる。パーソナルな対応といえば聞こえはいいかもしれない。しかし決して簡単なことではない。患者の理想を導き出し、その理想を叶える。そのためには、歯科医師、歯科衛生士、歯科助手、受付、歯科技工士、管理栄養士など全員がチーム一丸となって患者をサポートする。もちろん患者の協力も不可欠である。私はそんなチームが作れる、そして各職種と患者をうまく繋ぎ、自分自身と患者も繋がり結果が出せるそんな理想のTCを目指す。

第 5 章　おわりに

日本の歯科医療におけるTCの役割について述べてきた。ここで述べたことを空想で終わらせないことが重要である。すでに仕組み作りをする上でいろいろな意見や議論が交わされている。これから先も課題や壁にぶつかることは多くあるだろう。しかし、私の永遠のテーマ「食の入口である口を通してより多くの人々の健康観を上げ、笑顔で口福（敢えて幸福ではなく口福と書く）な生活へと導く」を実践すべく挑戦と努力を継続していく。

参考資料

■　参考文献

[1]　財団法人 8020 推進財団：永久歯の抜歯原因調査報告書；2005.3

[2]　吉武裕：高齢者の体力と口や歯の関係，口腔と全身の健康との関係 II; 財団法人 8020 推進財団，東京

[3]　Iwai T, et al.:Oral bacteria in the occluded arteries of patients with Buerger disease; J Vasc Surg.42, 107-15,2005

[4]　鴨井久一，花田信弘，佐藤勉，野村義明編：Priventive Periodontology; 医歯薬出版，東京，2007

[5]　「健康日本21（第二次）」中間評価報告書（案）

■　参考サイト

[1]　「国民医療費結果の概要」，https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/17/index.html，厚生労働省「平成29年度国民医療費の概要」

[2]　8020 推進財団，
file:///C:/Users/eri%20mae/AppData/Local/Microsoft/Windows/INetCache/IE/H8R3LG2G/haguki.pdf，「からだの健康は歯と歯ぐきから」

[3]　MI21.net，http://www.mi21.net/qol/ability/total_body.html，
「口腔が全身の健康に及ぼす影響」

URL は 2020 年 1 月 28 日　現在

以上、3443 字